



えと文

三津田隆子

エクスクラ

メーシヨン・マーク

床の間には掛軸がかかっていた。

軸は季節や、祭や、慶弔の時を選ぶ。

取りかえる時、季節の移り変わり、生活の信条、解剖されない感情が確められた。

二DKに床の間はない。ビル建築の2億の予算にも壁の絵を含んでいない。

都市に集まって、人は「欲望」と「もの」にむきあう。

絵は自然になじまず、スローガンを持たず、感情を離れて「欲望」と「もの」の正しい位置を発見しようとする。

エクスクラメーシヨン・マークはセンチンスのしめくりをせず、ベニヤ板の上に逃げ出す。

(昭32年女子大英文卒・画家)